

INTERVIEW

地域の方から「保護司をやってくれないか」と依頼され、保護司となつて17年目になります。特に印象に残っているのは、生命に関わる事件を起こした方を担当したときです。被害者や遺族を思うと、立ち直りを支えることに葛藤もありましたが、本人には謝罪や慰霊の気持ちを忘れないよう伝え、向き合ってきました。

活動では、保護司同士の連携を大切にしています。一人での対応に不安があるときは二人で対応するなど、互いに協力しています。地域の皆さんにも更生保護への理解を深めていただき、ともに立ち直りを支えることで、第2、第3の被害者を生まない地域にしていきたいと考えています。

田原保護区保護司会 会長

かすやまさゆき
粕谷政行さん



現在は1、2名を担当しており、月に3回ほど面談をしています。活動の中で印象に残っているのは、担当する方が少しずつ地域や世間になり、「何とか頑張つていこう」と前向きに歩んでいく姿を見られることです。関わる中では、相手の意思を尊重し、信頼関係を築くことを心がけています。

また、地域の方と交流ができる場には、できる限り参加してもらい、立ち直ろうとする姿を地域の皆さんに知っていただくことも大切だと考えています。地域の奉仕活動などに参加する際には、その姿を温かく見守っていただければと思います。

田原保護区保護司会

くぜまさひろ
久瀬正弘さん



更生保護女性会では、会員の皆さんと力を合わせ、母の鈴作りや、更生保護施設への訪問・食事の提供などに取り組んでいます。母の鈴には、「私たちが見守っているよ」という思いを込め、田原市内の小学1年生と中学3年生へ届けています。

できる時に、できることを、自分のできる限りやろうという思いを持って活動しています。立ち直りの支援は、とにかく被害者の立場に立ち、自らの罪を振り返る教育が大事だなと感じます。今後も更生保護女性会として温かな愛情をもって、「一人ではないよ、みんな考えて頑張つて生きていこう」という思いを伝えていきたいです。

田原市更生保護女性会 会長

すずきなおみ
鈴木尚美さん



同業の事業者が協力雇用主会で活動していたことをきっかけに、私も参加しました。この会に入つて、約10年になりますが、働くことで生活の基盤ができ、社会との接点を持つことで、再犯防止にもつながると感じています。

人は誰でも過ちを犯してしまう可能性がありますが、一度の過ちだけで人生が終わるのではなく、やり直す機会を得て、再び地域の一員として活躍できる社会であってほしいと思います。そのためには、地域の皆さんや事業者の理解と協力が欠かせません。地域全体で立ち直りを支える輪がさらに広がっていくことを願っております。

田原保護区
協力雇用主会 会長

もりしたつかさ
森下宰さん

